

## 2021 年度 事業報告

### 総括

2021 年度も、コロナの影響は大きく、シェルターやステップハウスが満室の状況が続いた。昨年に引き続き、国のパイロット事業（ステップハウスの開設、WACCAにおけるDV被害女性と子どもへの中長期支援事業）への取り組みも継続した。スタッフの不足は課題であるが、それ以前に、DVや支援やジェンダーについての知識と理解を持ったスタッフの育成に当団体が取り組む必要性を感じている。女性に対する暴力や貧困の大きな要因であるジェンダー不平等の改善への具体的な取り組みとして、2021年度も継続してデートDV防止授業や企業への啓発講座を行った。さらに、国や地方自治体への提言や直接交渉なども積極的に行い、その成果を得ることができた。これからも、支援活動と同時に、そこから見える課題解決への取り組みも当団体の大きな役割として、行っていきたいと考えている。

（代表理事 正井禮子）

### I. DV等の被害に苦しむ女性と子どものための相談・支援

#### （1）各種相談

\*電話相談（サポートライン 月水金 10:00～16:00、緊急時の携帯電話込み） 659 件

\*面接相談 一般相談 248 件（内、居住面談 25 件）

\*メール相談 155 件

#### （2）一時保護事業

##### \*利用実績

入居 63 件（現在、シェルター2部屋4家族入居可能）

（内訳：おとな 36 人、子ども 27 人）

延べ滞在日数 937 日（子どもの滞在日数含む）

#### （3）ステップハウス事業（4か所6戸）★2021年度、新たに2か所4戸を増設しました

##### \*利用実績

（1）ステップハウス①（ファミリー向け）：1戸

おとな 8 人 同伴者 2 人（成人子どもを含む）

延滞在日数 696 日（同伴者の滞在日数含む）

（2）ステップハウス②（ファミリー向け）：一軒家

おとな 4 人 同伴者 6 人（成人子どもを含む）

延滞在日数 84 日（同伴者の滞在日数含む）

（3）ステップハウス③（単身向け）：2戸

おとな 2 人

延滞在日数 330 日

(4) ステップハウス④(単身～ファミリー向け) 2戸  
大人 2人 同伴者 1人(子ども)  
滞在日数 105日

(4) DV被害者等生活支援事業

(神戸市) 9世帯

(自主事業:神戸市外) 4世帯

\*月2回家庭訪問を行う。

\*専門家による相談を行う。

(5) 居住支援

\*利用実績

相談 98件 内成約 25件

(6) 同行支援

525件(滞在中 498件 単発 27件)

\*主な同行先

警察、病院、役所、弁護士事務所、裁判所、不動産屋、家探し内覧、買い物 など

(7) つながりサポート

\*実施状況

2021年9月～2022年3月にかけて、月1回あすてっぷ神戸にて開催

来場者数(総数) 791人

相談者数(総数) 188人

● 成果と課題

<各種相談について>

2021年度、全体としては、電話相談は増え一時保護につながるケースもあった。しかし、リピーターからの相談も多く、新規件数があまり増えていない。2022年度は、今後、新規相談を増やしていくために、今までの相談者の年齢や相談の経緯を振り返り、電話以外のSNSなど、より相談しやすい相談方法を増やしていきたいと考えている。

神戸市、宝塚市から委託を受けて、相談ダイアルを実施した。

<一時保護事業・ステップハウス事業について>

一時保護事業は、明石市と新たに委託契約を結び、2021年度は県と合わせて委託一時保護が増加した。その中で、虐待から避難する若年層の女性が重なって利用された。若年女性の話を伺うと、長年の親からの支配に耐えられず出てきた、またDV家庭で育ち、親や兄弟との関係の悪化等様々な背景があることが分かった。

若年女性への支援を通して、住居やスマホ契約の課題が明らかになった。このような課題の対応として、新たに単身女性向けのステップハウスを増やすこととなった。

ステップハウスは、若年層以外にも多様な年齢の方の利用、また様々な利用の仕方があった。ステップハウスを利用することで通学や通勤が可能になり、新たな生活がスタートすることが出来た。シェルター、ステップハウス退出後の自立支援事業も9世帯へのサポートを実施した。

昨年は外国籍の母子の支援が増えた。DVの被害を受けているがゆえに、コミュニティーに関わる事が出来ず孤立しがちの母子が多くみられた。また、DVのトラウマや障がい等、母親自身が自らもトラウマを抱えつつ子どものサポートに加え、調停や面会交流等負担の大きい中でスタッフの伴走支援で1つずつ課題をクリアして行く様子が見られた。また、相談される方で精神疾患のある方が増加し、対応にとっても苦労した。

今後は、スタッフの研修やスキルアップを行い、また精神科医や地域の障害者相談支援センター等との連携を深めることが必要だと痛感した。

#### <居住支援事業>

居住支援の相談件数は、2020年度の1.3倍の98件であった。相談の多くはDV被害女性であり、子どもも連れて家をでたいという方だったが、家庭内で虐待を受けている若年女性からの相談も増えている。夫から母子ともに暴力を受けているケースでも、それがDVとは思わなかったと言われるケースもある。ただ、非常に怯えていたり、明らかに鬱症状がみられる方も少なくない。「よく家を出る決心をされましたね。あなたは決して悪くありません」という言葉かけを丁寧に行っている。子どもが絶対に転校したくないので校区内での転居を、という希望も多い。

DV防止法の改正が行われ、加害者が処罰され被害者がコミュニティーに留まることができるようになることを願ってはいるが、それまではDV被害女性にとって居住支援は不可欠だと考えている。

#### <つながりサポート神戸>

神戸市の委託事業として貧困や孤立に苦しむ女性たちを対象に、女性による女性のための相談&食糧支援を提供する事業として「つながりサポート神戸」を開催した。全6回の開催で、800人近い参加者があった。多くがシングルマザーだったが、参加者の状況から、貧困と暴力が密接に関係していることも痛感した。次年度も開催予定である。

## 2. 女性や子どもに対する暴力をなくす活動

### (1) デートDV防止事業

#### ① デートDV防止授業の実施

コロナ禍の影響でオンラインでの授業を実施した学校もあった。

担当講師が学校とその都度丁寧にやり取りをして実施している。学校ごとに環境が違うが、今後の増加も見込まれ、ウィメンズとして講師間で実施方法について共有しておくことが重要である。オンラインでも対面でも学校側と講師の努力や熱意で実施できている。大変感謝している。

**\*実施実績**

中学校 31 校  
高校 24 校  
大学・専門学校 17 校  
特別支援学校 2 校  
総数 11543 人

引き続きのコロナ禍の影響による減少が心配されたが、前年(2020年度)より15校増、受講人数は1,547人増と回復傾向。

**②デートDV防止授業実践報告を作成**

三井住友銀行ボランティア基金を活用し、デートDV防止授業の効果と有効性を伝え、受講生・学生の感想とアンケートの分析を掲載した冊子（「ジェンダー平等社会実現のために デートDV防止授業の実践報告～必要性とその効果～ 15年間・25万人に届けた軌跡」）を1000部作成した。今後は、学校や行政に配布を行う予定である。

**(2) デートDVトレーナー養成オンライン講座**

2021年11月21日・22日 参加 15名

**(3) ボランティア養成オンライン講座**

2022年2月実施 参加者 28人（うち、ボランティア希望者6人。希望者に対しては、追加の説明会を実施）

**(4) 企業向けDV防止オンラインセミナー**

兵庫県内の2社で実施した。

- ① ケンミン食品
- ② 兵庫県立村岡高校 教職員向け

**● 成果と課題**

コロナ禍は継続しているものの、デートDV防止授業の実施数は例年通りに戻りつつある。継続して実施する学校がある一方で、新規に実施する学校の開拓が必要である。本年は、デートDV防止授業の必要性とその効果をまとめるべく、新たに効果測定のためのアンケートを作成・実施したうえに冊子を作製したため、この冊子を手掛かりにさらなる実施校増加を行いたい。

懸案事項であった講師の数については、2021年度のトレーナー養成講座参加者の中から、学校見学・追加講習といったサブ講師へ向けたトレーニングを開始している方が複数名いるため、今後の活躍が期待される。ボランティア講座についても同様に、参加者の中からボランティア希望の方がおり、2022年度はボランティアとして参加する予定である。

**3. シングルマザーや子どもたち、女性たちの居場所・生活再建事業**

**(1) WACCA b (ふらっと) : 交流拠点**

**\*利用実績**

利用日数 201 日

居場所来所 1346 名  
相談 98 件  
親の学習支援（日本語学習） 22 件  
フードパントリー(10世帯のエントリー制) 24 回(240名)  
食料支援 320 名(常時)

(2) WACCA+(ぶらす)

① 相談事業

- ・居場所事業 DV被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営
- ・弁護士、精神科医、キャリアコンサルタントなどの専門家に加え、スタッフなどの相談事業を行った。

\*利用実績

法律相談 23 件  
女性の悩み相談 25 件  
オープンダイアログ(リフレクティング) 83 件  
WACCA ぶらす相談 39 件  
電話・Line・メール 20 件  
自助グループ(オリーブの会) 16 人

② 居場所事業：DV被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営

- \*週1回程度女性たちが集まって、軽作業などの社会に向けた活動(ボランティアの日) 延べ 202 名
- \*読書会、おしゃべり会など、人が集いエンパワメントできる場を作る 延べ 272 名

(3) 学習支援WACCA塾：

- ・学習支援の継続実施 学校での授業理解など基礎的な学ぶ力をつける学習をボランティアの見守りと支援で行った。

\*利用実績

小学生 827 名  
中学生 1175 名  
ボランティア 923 名  
WACCA 進路相談 7月21日(火)親子3組

- ・ボランティア同士の交流学びの機会

<ボランティアのつどい>

5月4日 19:00~21:00 (zoomで開催) ボランティア・スタッフ 22名  
9月4日 13:00~14:30 (zoomで開催) ボランティア・スタッフ 15名

#### (4) 母と子どもの体験交流事業

実験教室 8月24日(火)

ハロウィンイベント 10月31日(日)

クリスマス会 12月4日(土)

#### ●成果と課題

##### <WACCA b>

この2年の間に「WACCA b(ふらっと)」は2回の引っ越しを余儀なくされた。1回目はコロナ感染症でこれまでのWACCAの広さでは全ての業務を行う事が困難になったため、そして2回目の引っ越しは大雨が降るごとに水害の被害があり、日常の業務を行う事が困難になったためである。引っ越しが2回もあった事で通常の業務にかなり支障もあり、落ち着いて支援活動が出来なかったが、この度、2回目の引っ越しをしたことでスペースも広くなり居場所機能も充実する事ができた。

商店街の中に面していることでより多くの方に活動を知ってもらえ、実際に地域の方からも直接ご支援(寄贈品など)をご持参して下さる方もいた。また、ふらっと立ち寄って相談もされる方もいる。地域での他機関との連携も少しずつだが出来てきているように思う。これからは腰を据えて「ふらっと」の今後の支援と役割のあり方を構築できればと考えている。

##### <WACCA+相談>

相談事業としては、従来の専門相談、とオープンダイアログ(リフレクティングの手法による)を実施した。リフレクティングは継続の希望の方も多く、予定していた予約枠では足りないこともあった。また、親子関係の課題を持つ方も少なくなく、個人の相談とリフレクティングを混合させて継続した相談を行っている例もある。LINEの相談もいくつかはあったがカウントされていないことも多く、来年度は相談の一つとして位置づける予定である。LINE上だけにとどまらず、その後面談などにつながるケースが多かった。

##### <WACCA+居場所>

今年度は居場所の充実にか力を入れて、様々な人が参加できるように、ボランティアの日、大人のための絵本カフェ、小さな読書会、てつがくカフェなど今までの活動を充実させるとともに、助成金を活用して『coco さろん』などの新しい居場所も開設した。そのため、居場所に集う人数は昨年度に比べてほぼ倍増する結果となった。集う人たちがそれぞれの悩みを打ち明けたり、励まし合ったりする姿も見られた。

またボランティアの日や coco さろんに集う人たちの中には、当団体のボランティア研修に参加したり、ほかのボランティアに参加したり、あるいは資格を取って、次のチャレンジを目指す人も現れた。2021年度はせっかく新しい拠点ができたので、居場所の機能を新拠点に移すことも実施した。来年度は、フラットでの居場所として機能していくようにする予定である。

##### <WACCA 塾>

今年度は何度も緊急事態宣言や蔓延防止措置が繰り返される中、ボランティアの協力のもと、感染拡大防止に最大限留意しながら休むことなく実施することができた。また、コロナ禍でシングルマザー家庭

は困難が増すなか、学校やSSWからWACCA塾での学習支援や生活の見守りの依頼が多くなっている。  
 今後も各機関と連携を取りながら、子ども支援を継続していきたい。

#### 4. 組織基盤強化事業

DV被害を受けた女性と子どもの切れ目のない中長期支援の構築を目指す

##### (1) 支援記録の電子化

・2021年から、正式にキントーン導入によりデータベース化を図っている

<データ化している記録>

- ① 相談者一覧（2021年4月よりの相談者のデータベース）
- ② 支援者一覧及び支援記録（面接、電話相談などの内容を入力）  
 シェルター・ステップハウスなどでの支援記録、WACCAでの支援記録
- ③ 居住支援のデータベース
- ④ スタッフそれぞれのスケジュール共有
- ⑤ 寄付者一覧データベース

##### (2) スタッフボランティア研修の実施

- ・研修のテーマ：開かれた対話のある職場づくり
- ・研修の内容：ウィメンズネット・こうべの歴史やこれまでの実績などを先輩スタッフに語ってもらう  
 研修を実施した。オープンダイアログ、リフレクティングの手法を使って、対話に基づくスタッフ同士の意思疎通や、組織を考える目的で、新人、中堅、リーダーと分かれ研修を行った。
- ・研修実施の背景：業務が煩雑になり、新人も増えたことから、研修の必要性を特に感じるようになった。支援のためのスキルもさることながら、それに携わるスタッフやボランティアの、当事者へのかかわり方や対応の仕方などで、当事者への信頼関係にも影響すること、あるいはスタッフ同士の連携が必要となることから、「対話」を重視した関係性を作る研修を実施した。
- ・研修日程：

開催日	テーマ	講師	参加人数
4月14日	ウィメンズネット・こうべの歴史とチャレンジ キントーン導入について	スタッフ	6名
5月12日	ジェンダーチェック DV被害者支援の実際について	スタッフ	5名
7月28日	オープンダイアログ リフレクティングについて	平野美紀（精神科医）	6名
7月30日	オープンダイアログ リフレクティングについて	平野美紀（精神科医）	6名
8月2日	WACCAの活動について	スタッフ	6名
8月20日	リフレクティングを使った活動の振り返り	スタッフ	6名
8月23日	DV被害者支援リーダー研修		

1月10日	DVとトラウマからの回復	山田嘉則（精神科医）	14名
1月22日	DV防止ながさきとの勉強会		20名
2月27日	DV支援の実際 若年層・中長期・子供の支援に なげるための基盤となる被害者のエンパワメント	増井香名子 （大学教員）	15名

## ●成果と課題

オープンダイアログを使った、対話を重視した研修を行った。また支援分野でのリーダー研修も行った。専門家研修では、日頃の活動からみえるものや他団体との交流研修によりさまざまな気づきがあった。支援の内容が多様化していることから、より高いスキル、現在の状況にあった支援の方法も再考する必要があり、一層の人材育成に一層の充実を図ることが求められている。しかし業務の多様化、多忙により、必ずしもスタッフ同士のコミュニケーションが円滑に運ばなかった場面もあり、チームで動く支援の方法が一層求められている。

## 5. 組織運営

### <会議の開催報告>

- ・総会の開催：2021年5月23日（日） zoomによるオンライン会議で開催
- ・運営委員会の開催：2021年4月から2022年3月、毎月第一木曜 開催

昨年度に引き続き、月1回の運営会議を開催し、組織運営の改善および効率化に取り組んだ。

### <会員数・寄付者数>（2022年3月31日時点）

正会員：28名、賛助会員：82名、寄付者数：221名

### <組織体制>

理事：8名、監事1名、スタッフ：19名、ボランティア：49名

### <協力団体・協力者>

認定 NPO 法人フードバンク関西 / NPO 法人フリーヘルプ / 特定非営利活動法人 すまみらい / 認定 NPO 法人 CS 神戸 / 生活協同組合コープこうべ / 公益社団法人 日本フィランソロピー協会 / 国際ソロプチミスト各団体 / フジッコ株式会社 / 特定非営利活動法人おてらおやつクラブ / 一般財団法人日本善意財団 / 神戸市社会福祉協議会 / 日本ロレアル株式会社 / カーブス板宿 / 株式会社ロゴナジャパン神戸本社 / 株式会社神戸物産 / イソップ・ジャパン株式会社 / ネスレ日本株式会社 / P&G ジャパン / 公益財団法人社会貢献支援財団 / 株式会社みらいたべる / エフエムジー&ミッション株式会社（順不同）

その他、匿名の企業・個人の皆様等、ご寄付等団体をご支援してくださった皆様

ご寄付、物品寄付をしてくださった支援者の皆様に心より感謝申し上げます



